

技術を評価 無担保融資

道内初 北洋銀、東宏に1億円

北洋銀行は31日、特許など知的財産の価値を評価して無担保で資金を貸し出す制度の第1号として、土木資材製造販売業の東宏（札幌、小林雅彦社長）に1億円を融資した。東宏はトンネルのコンクリート工事に関わる技術などで13件の特許を取得。北海道新幹線札幌延伸などの大規模工事にも参加しており、事業のさらなる拡大が見込めると判断した。

東宏は1972年設立で、2015年度の売上高は約25億円。コンクリート

が固まる際に一定の温度や湿度を保つことで仕上がり品質を高める「養生」の技術や、爆破作業で岩石の飛散を防ぐ装置などを、自社単独や大手ゼネコンなどと共同で開発してきた。

取得済のほか、公開中、出願中の特許も計15件あり、技術力の高さから道外工事の受注も多い。融資は養生や土砂の迅速な搬出などトンネル工事関連の技術開発に充てる計画で、小林社長は「これまでの取り組みを高く評価してもらい光栄だ。これを糧にさらなる

技術開発に努めたい」と意欲を見せている。

北洋銀によると、知的財産を評価した無担保融資は道内金融機関では初めて。通常、企業向けの融資では過去の業績や担保などの有

無で返済能力を判断するが、北洋銀は技術や商品の「稼ぐ力」を評価すること

で、将来性がありながら担保不足などで融資しづらかった企業にも資金を供給し、成長を後押しする考え

だ。

金融庁も、こうした融資で中小企業を育て、地域経済を活性化させるよう、地方銀行や信用金庫などに促している。

日本経済新聞

「知財活用融資」

北洋銀が第1号

建材商社に1億円

北洋銀行は31日、取引先が持つ特許権などの知的財産権の評価額をもとに融資する「ほくよう知的財産権活用融資」の1号案件に融資したと発表した。トンネル工法で独自技術を持つ建設資材商社の東宏（札幌市）に、1億円融資した。

北洋銀は知的財産を活用した融資商品を昨秋から取り扱い始めていた。

北海道新幹線の延伸工事などの需要で同社の成長が見込めると判断した。

北海道建設新聞

北洋銀の知的財産権活用融資

北洋銀行は10月31日、顧客が保有する知的財産権の活用で資金需要に応えることを目的とした「ほくよう知的財産権活用融資」の第1号案件として、土木建設資材総合商社の東宏（本社・札幌、小林雅彦社長）に1億円を融資したと発表した。

知的財産を活用した融資商品としては道内初となる。

同社はトンネルの養生工法に関する独自技術を開発することで、多数

東宏に初めて実行

トンネル技術、開発力を評価

の特許を保有し開発型の事業展開を図っている。

北洋銀は、同社のトンネル工事関連を主体とする独自の技術と高い商品開発力に加え、他社との明確な差別化による高いシェア、主力商品であるトンネルバルーン工法やセントル養生工法、アクアカーテン工法など、さまざまな新技術開発への積極的な取り組みを高く評価し、北海道新幹線延伸やリニア新幹線延長な

ごにのりなる成長が期待できるとして融資を行った。

小林社長は「新技術開発への積極的な取り組みなどが認められ、大変光栄に思っている」と話し、融資は進行中の技術開発に充てる。

ほくよう知的財産権活用融資は道内に本社、または営業拠点がある法人・個人の事業主を対象とし、特許などの知的財産権を持っていることが条件。借入期間は運転資金が1年以上7年以内、設備資金が1年以上10年以内に設定している。